

文化・芸術

「蝉 XⅢ」

1982年、コルテン鋼
12・0cm×47・0cm×29・5cm
(湯浅和子氏寄贈)

土谷 武 (1926～2004年)

鉄を素材とする抽象彫刻家土谷武の1980年代の典型的な作品です。土谷は、当美術館が所蔵する具象彫刻の柳原義達と若いころから親交があり、ともに日本大学芸術学部で後進の指導にもあたりました。

「抽象」というと、むずかしいように思えますが、この作品をみれば、すぐにセミ(蝉)といてあてるとでしょう。削って、そぎ落として、ここまで単純な形にしていますが、どうしてもセミなのです。土谷は、風、大気、生き物などの自然をモチーフに、しかも金属の重量感を裏切るような軽さ、また微妙なバランスなど、鉄という素材と対話しながら数々の作品を残しました。

このたびの寄贈作品には、作者がつくった鉄の台座が付属しています。この台座は、置かれたセミのシャープな形の小さな塊と対照的に、圧倒的な重量感があります。その対比の妙もあって、とても存在感のある展示になります。(田中)

〈名画の扉〉

大川美術館新収蔵作品から

